

P-207 妊娠糖尿病のスクリーニング法に関する検討---どのような妊婦に必ずスクリーニングすべきか

岡山大, 小国病院*, 松岡病院**, 三豊総合病院***
大橋美佐保, 平松祐司, 石原 剛***, 増山 寿,
水谷靖司, 土村茂仁, 工藤尚文, 小国信嗣*, 小国美
種*, 松岡 巖**, 関 正明***, 今井香里***

[目的] 近年, 妊娠糖尿病(GDM)は増加傾向にあり, そのスクリーニングが提唱されているが, 未だ十分に普及しているとは言い難い. そこで, より簡便な方法, および必ずスクリーニングを要する症例は何かにつき検討した. [方法] 1996年1月~98年6月までに, 血糖を測定した2,235人を対象に, スクリーニング法, リスクファクターにつき検討した. [成績] 妊娠初期血糖値は $86.4 \pm 10.8 \text{ mg/dl}$, 中期血糖値は $85.1 \pm 11.2 \text{ mg/dl}$ であり初期に高値を示した. 周産期委員会の血糖 cut off 値 100 mg/dl 以上の頻度は, 初期: 食後2~4時間群 7.3%, 随時血糖群 11.8%, 中期: 10.3%, 12.0%であり, いずれの時期も両群間に有意差を認めなかった. これらの症例に75gGTTを実施し, そのGDM検出率は妊娠初期0.55%, 中期0.61%であった. リスクファクターの検討では, 糖尿病家族歴・尿糖陽性の反復・肥満・HFD児分娩既往の4項目が高頻度であり, 妊娠初期GDM患者の約8割が2項目以上のリスクファクターを有しており, 中期でも同傾向であった. この中でも特に肥満度に注目し, やせ($\text{BMI} < 18$), 標準, 肥満($\text{BMI} \geq 24$)に分けて検討すると, 中期随時血糖はやせ: $83.9 \pm 10.3 \text{ mg/dl}$, 標準 85.7 ± 10.4 , 肥満 88.9 ± 11.4 と体重が増加するに従って上昇し, 血糖 100 mg/dl 以上の頻度も 11.3%, 14.1%, 20.1%と肥満に伴い上昇し, GDM発見率も増した. 妊娠初期でも同傾向を示した. [結論] 随時血糖によるスクリーニングでも, 食後2~4時間血糖値による方法と同等にGDMのスクリーニングが可能である. そして, 75gGTTは糖尿病家族歴・尿糖陽性の反復・肥満・HFD児分娩既往リスクファクターを有する随時血糖値 100 mg/dl 以上の妊婦, 特に肥満妊婦では実施すべきである.

P-208 妊娠中毒症の脂質代謝特性 ---とくにLDLの被酸化性に注目して---

高知医大
泉谷知明, 若槻明彦, 岡谷裕二

[目的] これまでに, 妊娠中毒症(PE)の基本病態である末梢血管攣縮には, free radical(FR)による血管内皮障害が関与することを報告してきた. FRにより酸化されたLDLは, 血管内皮を障害することから, 本症の病態形成への関与が注目されている. そこで, PE妊婦における脂質代謝を, 特にLDLの被酸化性に注目し, 検討した. [方法] 同意を得た正常妊婦16例(C群), 純粋型重症妊娠中毒症妊婦9例(T群)を対象に, (1), 血中総cholesterol(TC), triglyceride(TG), LDL-TG, LDL-apoB濃度を測定した. (2), LDLに CuSO_4 を添加後, 共役ジエンの生成を経時的にモニターし, LDL脂質の酸化開始までの時間(lag time)(LT)と, 単位時間当たりの酸化の程度(propagation rate)(PR)を測定した. (3), (2)と同様の方法で酸化させたLDLにTNBSを添加し, LDL蛋白内のLysin残基の減少率を測定した. [成績] (1), TG, LDL-apoBは, C群に比較し, T群で有意に高値を示したが, 他は差を認めなかった. (2), LTはC群の 81.8 ± 6.5 分に比較し, T群で 70.8 ± 12.8 分と有意に短縮し, PRは, C群に比較し, T群で有意に高値であった. (3), Lysin残基の減少率は, C群の $10.2 \pm 9.5\%$ に比較し, T群では $19.4 \pm 8.3\%$ と有意に高値であった.

[結論] T群でLDL-apoBが高値であったことから, PE妊婦のLDL粒子数は増加することが示された. さらに, T群でLTが短縮し, PRが上昇したこと, また, Lysin残基の減少率が高値であったことから, PE妊婦ではLDL内の脂質・蛋白いずれも易酸化性であることが明らかになった. 従って, PE妊婦で増加したLDL粒子は, 血管壁内で容易に酸化され, この酸化LDLが血管内皮障害を助長し, vasospasm発症に関与する可能性が示唆された.